

相馬支援学校のホームページに掲載されている資料

及び学校公開で紹介した資料から

ICT 機器活用目的の整理 と実践事例

令和 4 年度デジタル推進部・研修部共同制作



時間が
ない、
一括で
読みたい
先生方へ！

【ICT 機器を活用するとは

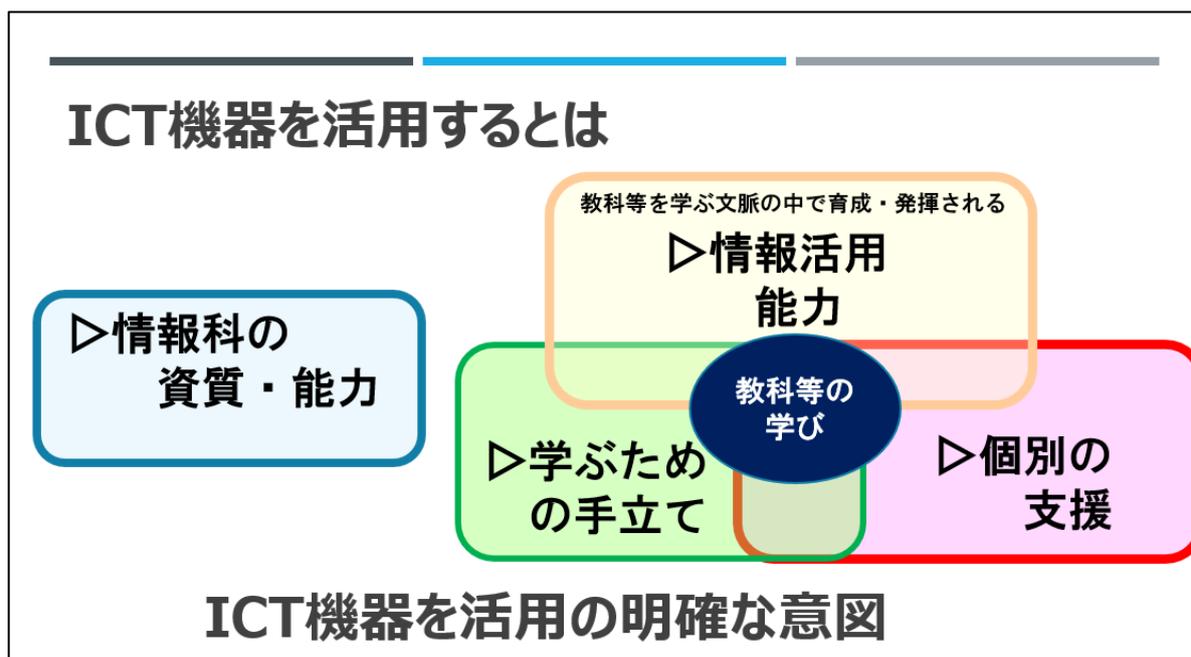
～活用の目的を整理し、意図的な活用へ～】

実践を積み重ねてくると、ICT 機器の活用といっても、その意図によって活用場面が明確に異なることが見えてきました。

本校では、ICT を活用するにあたり次のように整理しながら、授業を行ってきました。

一つ目は、シンプルに情報科の資質・能力を育む場面

二つ目は、教科等の学びを深めるために、情報活用能力・学ぶための手立て・個別の支援という3つの整理ができ、ICT 機器を活用する側の明確な意図を持ちながら授業を行う事が大事であり、ICT ありきの授業にならないポイントと考えます。



【活用のイメージ図】

【活用の目的で整理し、意図的な活用とは】



【各教科等の学びの文脈の中で活用しているイメージ図】

○情報科等の資質・能力を育む場合は

情報科の資質・能力については、高等部の教科別の指導、または中学部の職業・家庭科において学びます。その際、作業学習や生活単元学習等の各教科等を合わせた指導においても、ICT 機器を使っているから、関連しているからという曖昧さではなく、情報科等の資質・能力を育む場合は、3 観点で目標設定、評価規準を設定し、指導と評価の一体化を図ることが大切です。

○各教科等の学びの文脈の中で活用するとは

『情報活用能力』としては、基礎的な情報に関する知識・技能(検索の仕方、方法)を学んだり、文脈の中で情報モラルやアプリの活用方法を学ぶ場面等があります。本校では、各学部において育成を目指す「情報活用能力」が示されており、単元案にて明確にし、学びの文脈の中で意図的に育むことができるようにしている。

『学ぶための手立て』としては、Google meet、ジャムボード、各種資料等の活用する場面等があり、知的障がいのある児童生徒の学びの特性に応じながら、目標とする資質・能力がより育むことができるように、手立てとして活用しています。

『個別の支援』としては、例えば、書くことに困難さがある生徒が、国語の感想文を書く際に、書くことが精一杯で考えを整理することが難しいことから、音声出力機能を活用して考えを整理するために活用するなど、一人一人違う障がいによる学びの困難さに対応して、学びを深めていくための支援として活用しています。



ただタブレットを使うのではなく、教師側がきちんと整理し、明確な意図を持つことで、さらに学びが深まると考えています。

ホームページ掲載資料より
○授業実践編

【高等部の学習の様子②】

ICT機器を活用した、

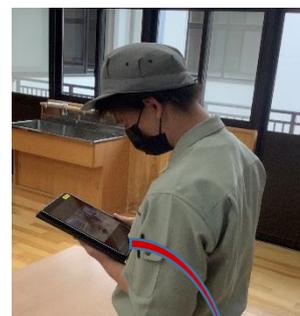
「情報科の資質・能力」「情報活用能力」育成シリーズ①

高等部の作業班では、実際の企業でもタブレット端末を使用して行う場合がありますので、「情報科」の指導内容を計画的に取り扱っています。

総合サービス班では、各教室等を清掃する場合には、「どこに誰が行くか」という報告や「(~教室) 終わりました。」等の終了時の報告をタブレット端末でしています。また、教師側から休憩の指示も出す等、双方向のやりとりもできるようにしています。

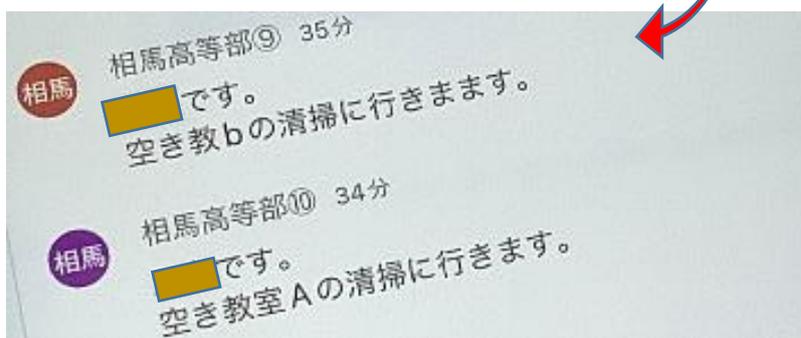
さらに、木曜日の作業学習では、清掃等ではなくパソコンを使った学習も行い、様々な働き方に対応できるようにしています。

【報告している様子】



【作業学習の中で

「情報科」の内容を学ぶ様子】



【実際に報告している画面】

織物班、陶芸班、紙すき班の様子も、今後、順次お伝えしていきます！

【高等部の学習の様子④】

ICT機器を活用した、

「情報科の資質・能力」「情報活用能力」育成シリーズ③

職業の時間（5月20日、5月27日）に、シャープ特選工業株式会社のオンライン出前授業カリキュラム「働くことの意義」（5月20日）「働く先輩から学ぶ」（5月27日）を活用しました。

「働くことの意義」では、「仕事を進めるために大切な力（①健康管理、日常生活管理、②対人スキル、③基本的労働習慣、④職業適性）」を学校生活での場面と関連させて分かりやすく学ぶことができました。生徒からは、「仲の良い友だちだけでなく、苦手な人などでも、いつでもよい信頼関係を持てるようにする。」等、対人スキルを学んだ後に、自分が取り組んでいくことを考えていました。



「働く先輩から学ぶ」では、実際に働いている先輩の話（VTR）から、「仕事は楽しい。理由は人と接することができるから。」「自分自身が強くなる努力も必要。」等、よく聞いて学ぶ様子が見られました。授業の振り返りでは、「仕事をする時、自分がやることを把握すると仕事が早く終わるので、これからは僕も先輩みたいに作業をしたいです。」「先輩は遅刻もしない、休まないことがすごいと思いました。」とそれぞれの生徒が働くことについて考え、「職業科」の内容を深める時間となりました。

また、今回は、通信技術を活用した双方向のコミュニケーションをしながら「職業科」の学びを深めることができました。コロナ等の影響もまだありますが、今回のように ICT 技術を活用し、今後も外部とつながりながら、積極的に自分の考えを広げていく機会を確保していきたいと思っています。



【高等部の学習の様子⑤】

ICT機器を活用した、

「情報科の資質・能力」「情報活用能力」育成シリーズ②

理科（「人の体のつくりと働き」）では、タブレット端末を有効に活用して授業を進めています。

生徒はタブレット端末を使って、ノートにあるQRコードを読み込んで必要な情報を得て学習を深めています。



【QRコードを読み込む生徒】

また、画像教材等の資料を見ながら、ポイントとなる所では、停止ボタンを押す等して調べたことを書き写しやすいように工夫していました。



【タブレット端末を使いこなす生徒】

日常的になってきたQRコードを活用していく利点や調べていくためにタブレット機器を操作するなどの理科の学びの文脈の中で「情報活用能力」を伸ばすことができました。

さらに、分かったことを生徒の共有ドライブ内のWordを使って、1つのシートに書き込むことで、生徒からは「みんなの考えが一斉に共有できるから面白い。」「みんなの意見が見えるので、振り返りが思いついたり、いい意見は使えたりします。」という感想があるなど、自分の考えの幅を広げる対話的な学びとして活用する場面も見られました。



【授業の気付きを打ち込む生徒】

【高等部の学習の様子⑦】

ICT機器を活用した、

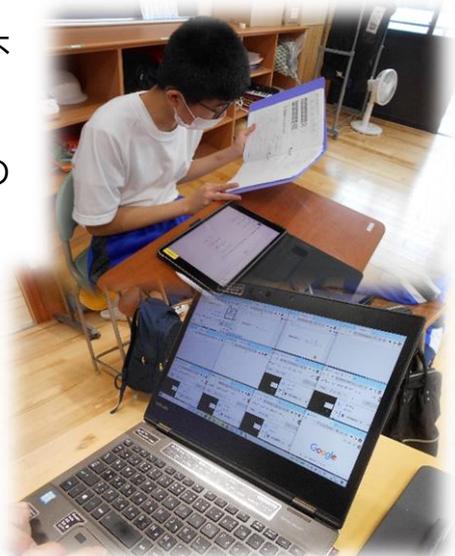
「情報科の資質・能力」「情報活用能力」育成シリーズ④

先週、数学の時間を担当している教師が学校に不在でしたがリモートで数学の授業を行いました。

生徒全員がタブレット端末を使用して「異分母の分数の加法」の練習問題に取り組みました。教師がそれぞれの進捗状況を画面上で確認することもでき、状況によって個別に指導するなど学びが深まるようにしました。



【画面を2分割にして、
効率よく学ぶ生徒】



【全画面表示にして、生徒の
進捗状況を確認し、指導する】

また、「通分の仕方」を学ぶことを目的にしていることから、計算が困難な生徒には画面を分割して計算機能を紹介され、その機能の扱い方を学び、取り組む様子が見られました。数学を学ぶ文脈の中で、計算等に関わった時のタブレット操作方法（2分割して取り組む方法）を学ぶなどの情報活用能力を育成することができました。

また、仮分数や帯分数など、生徒が分からない時は、リモートでつながり、画面共有して生徒とやりとりしながら学ぶ様子が見られました。

コロナ感染症等の状況もまだあることから、今後も、ICT 機器の利点を活用しながら生徒の学びを進めるように工夫していきたいと思えます。



【リモートで指導を
受けている場面】

【高等部の学習の様子①】

ICT機器を活用した、

「情報科の資質・能力」「情報活用能力」育成、教材・支援 シリーズ⑤

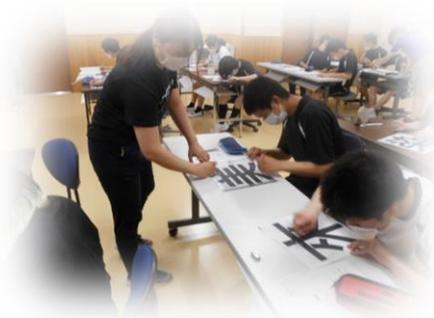
高等部1年生の美術では、「文字のデザイン」を学習し、文字のもつ意味などを考え、表し方を発想し、構想を練って表現方法を工夫して表すことができることを学んでいます。

実習明けの美術の授業では、印刷された字体の裏を鉛筆で塗り、文字をトレースしました。

その際、タブレット端末から映像を撮り、手元をテレビ画面に映して拡大させながら、生徒がどのように取り組むのか分かりやすいようにしました。



【手元を拡大している様子】



今後、トレースした文字を基本ベースにデザインした文字へと表現が始まります。どの生徒も、自分でデザインした文字を表現することを楽しんでいる様子が見られました。

【郵便局から相馬野馬追の絵を描いて欲しいとの依頼がありました！】

今年度、3年ぶりに相馬野馬追が開催されます。郵便局から野馬追の絵を描いて欲しいという依頼があり、取り組みを行いました。中央階段の踊り場にて展覧会を行っております。ぜひ、ご覧ください。



中央階段の踊り場にて
「相馬野馬追展」開催中！

【展示している作品の一部】

前期現場実習報告会

7月1日（金）に、前期現場実習の報告会が行われました。当初は、体育館で実施する予定でしたが、熱中症対策のため、空調機器があるランチルーム、視聴覚会議室に分かれて実施しました。報告の際には、高等部のA教室から映像を配信するなどして、ICT機器の利点を生かしながら取り組みました。

報告会では、一人一人の生徒が、前期現場実習での目標を振り返り、今後の学校生活で何を意識していくのか、卒業後の進路をイメージしながら発表することができました。

（*各生徒の実習報告は玄関前に掲載してありますので、ぜひ、ご覧ください。）

陶芸班の報告の中では、「生活習慣」と「働くこと」との関わりを考え、実際の現場実習だからこそ、効果的に教科の指導内容を学ぶ姿や生徒の気づきが発表されました。



【陶芸班の発表スライドより】

また、1年生は、先輩たちの発表を聞いて、参考になる部分（「伝わる声の大きさ」「難しい時は、担当者に相談する」「気分転換をする。」等）をたくさんメモする様子が見られるなど、ただの発表会ではなく、互いの学びを深める様子が見られました。

校長先生からは、「卒業後のイメージをもって、実習で得たことや経験したことを無駄にせず、生活する力、働く力を高めていって欲しい。」と言葉があり、真剣に聞く姿が見られました。

それぞれの生徒にとって、卒業後をイメージして、さらに自分自身に必要な学習への意欲を高めるきっかけとなる報告会となりました。



相馬農業高等学校の「相農ショップ」との協働的な取組①

昨年に本校で開かれた教員研修の際に紙すきの商品を見たことをきっかけに、お声を掛けていただき、「相農ショップ」で一緒に販売する機会をいただいております。今年度も7月14日(木)、11月11日(金)の2回参加する予定です(*「相農ショップ」は年7回あります)。

7月1日(金)には、販売に向けて一緒に、商品の手書きポップ等の準備を行いました。その際、本校から、紙すき班の和紙を提供しており、紙の風合いから、味わい深いポップ広告になると好評を得ています！

また、今年度はさらに、紙すき班の「和紙」を使った新商品開発も協働して行いました。相馬農業高等学校の生徒たちからたくさんのアイデアをいただきました。

その際、本校からポケットWi-Fiとタブレットを持参し、よりアイデアを膨らませることができるようICT機器を有効活用しながら、学びを深めていきました。

【ポケットWi-Fiを活用し、本校のタブレット端末を使用して学びを深めている様子】



今後、試作品で意見をもらいながら、11月の2回目の相農ショップでは、いくつか新商品を出す予定です！！



【お客さんを意識して工夫した商品のポップ】



【高等部の学習の様子⑭】

朝の時間を使って、菊田生徒指導主事が全学年対象に情報モラル学習として、「スマートフォン、インターネットの適切な使い方について」を指導しています。

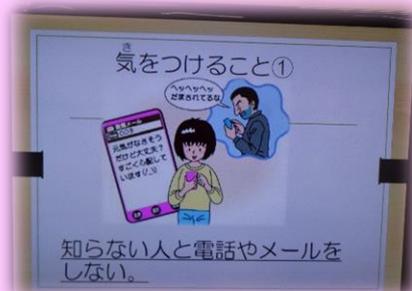
初めにスマートフォン、インターネットを活用することのメリット、デメリットを考え、その後に使用する上でのリスクを考えていきました。



リスクを避けるために気を付けることとして

- ①知らない人と電話やメールをしない。
- ②画像を送らない。ネットにアップしない。
- ③自分や他人の情報をのせない。

等を確認しました。



また、①～③について「どうしてだめなのか。危ないのか。」を考えることを大事にし、生きて働く知識・技能として、思考して、判断できるようにしました。

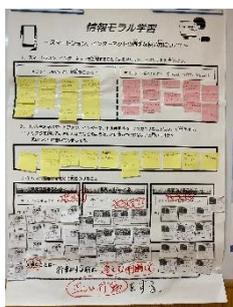
生徒からも

「画像を送ったら変なことに使われたり、どこに住んでいるかバレたりするから。」

「著作権に違法しているから。」

「会おうと言われて行ったら、犯罪や危険な事に巻き込まれるから。」

「知らない人が来るかも知れないから。」 等



「なぜ、危ないのか」を考えることで、ただルールを覚えるのではなく、必要な知識を深めていく様子が見られました。

学んだ内容は、職員室前の廊下の掲示版に掲載しています。来校した際には、ぜひ、ご覧ください。

【高等部の学習の様子⑱】

夏季休業中に、デジタル推進部から ICT の研修を受け、さっそく 2 学期から Jam board というアプリを使って、学習に活用する場面が増えてきました。

Jam board によって、生徒一人一人が考えていることがすぐに共有でき、考える視点に悩む生徒のヒントになったり、友達の考えに触れて新しい考えを思いついたり、ICT 機器を活用して、教科等の特質に応じて学びを深める様子が見られました。

また、入力が難しい生徒は、音声文字入力機能を使って、タブレットに自分の考えを話して入力するなど、自分の実情に合わせた使用方法があることを学ぶこともできました。



【社会科】:社会的な事象を身近な生活と関連付けながら、自分の考えを書きました。

【特別活動】:委員会活動では、前期の反省や2学期の取り組みを出し合いました。

学習の目標達成のために、様々な場面で使われ始めています。

これからの情報化社会、一人一人が情報機器の操作方法を学んだり、自分にとって有効に活用できる方法を学ぶことで、卒業後も情報を活用して、自分の人生を豊かにできる手段になると考えています。

今後も、教科等の枠を越えた力である“情報活用能力”について、教員も研修等で技術を身に付けながら、生徒たちの成長につながるように励んでいきたいと思えます。

【高等部の学習の様子⑳】

全国の特別支援学校の生徒たちがオリジナルのTシャツのデザインで競う「第5回オリT甲子園」があり、高等部美術科では、「みらいのせかい」をテーマに作品を募集しました。13名の生徒が取り組み、アニマルと人間の共存、夜の遊園地、自分が住みたい世界、平和、未来都市などそれぞれの生徒が想像力豊かな世界を描きました。それぞれの考える「みらい」は、明るく楽しい未来で自分の思いや願いが様々な表現方法で存分に表現され、世界に一つだけのオリジナルのTシャツとなりました。



「いいね！」8件
jota_orit 230
★未来への成長★
未来都市のように成長してほしいなと思い、この絵にしました。



「いいね！」10件

jota_orit 236

★平和な世界★

テレビを見て戦争のことをやりました。8月6日広島原爆の日など戦争のテレビをやって、平和を聞いて平和の絵を描きたいと思いました。戦争のない地球平和になってほしいです。

オリジナルTシャツ協会のInstagramでは、生徒の作品が投稿され、「いいね！」が審査の参考になるということで、校内でも掲示し、宣伝しました。自分達の作品がSNSを通じてたくさんの人に見て頂き、「いいね！」でも評価され、良い機会となりました。

先日、結果が発表され、芹澤未来さんの「未来への成長」、小船井晴彦さんの「平和な世界」が入選しました。入選作品は、2023年の静岡県熱海市で開催予定の「ふれあいフェスティバル2023」の会場で展示されます。

今後も美術科では、感じ取ったことや考えたことを基に、自分らしく表現できる作品づくりができるようにしていきたいです。

【高等部の学習の様子⑳】

高等部 1 年 1 組の社会科「国土の気候の特色」の単元では、日本の国土の自然環境や気候に特色と私たちの生活との関連を考える学びに取り組んでいます。学習内容の「暖かい地域の暮らし」を調べる内容では、沖縄県の宮古島の暮らしを取り上げました。

実際に宮古島に住んでいる沖縄県立宮古特別支援学校の先生にご協力をいただき、Google meet でつながり授業を実施することができました。



生徒の質問に、具体的にパワーポイントやクイズ形式で楽しく教えていただきました。また、宮古特別支援学校の先生の話聞きながら、分かったことや疑問に思ったことについてジャムボードを活用して表現し、すぐに全員で共有できるようにしたり、先生とやりとりしたりしながら学びを深める様子が見られました。



生徒からは「家に貯水タンクがあることや（台風の対策のために）窓が割れないように格子があることが分かりました。」「農業では、防風林があり、（台風の）対策をしていることが分かりました。」「暑いので、お風呂場に浴槽がない家があることにびっくりしました。」等、たくさんの違いに気付くことができました。Google meet 後に「自分たちの相馬地方との生活と全く違った。」と話す等、それぞれの生徒が宮古島の自然環境の特色や気候を踏まえながら理解を深めることができました。

現在本校では、デジタル推進部が中心となって、思考ツールとしての ICT 機器の活用も推進しています。実際に活用することで、思考ツールを使う技術の「情報活用能力」の育成だけでなく、社会科の資質・能力を育成するための効果が大きいことを授業より実感しました。今後も、タブレット端末等の扱いを教員で研修をしながら、より生徒の学びが深まるようにしていきたいと思ひます。



【高等部の学習の様子②⑤】

作業学習の紙すき班では、地域のネギ農家の鎌田さんから、紙すき班の紙を使い、商品（ネギ）を宣伝するラベルを作って欲しい依頼がありました。

教科等の枠を越えて育む資質・能力として、本校では「地域力」を掲げています。鎌田さんからの依頼について、生徒が「ぜひ、やりたい。」と意欲をもって地域と協力して取り組める場面を設定しました。

また、各教科等を合わせた指導の枠の中で、ラベル作りについては「情報科」の内容で取扱い、商品売るための情報デザインについて学びました。実際のラベルを作った後に、さらに鎌田さんからの要望に応じて、デザインを検討するなど、情報デザインの効果的な考え方に基づいて表現し、基礎的な技能を効果的に学び、ラベルを完成することができました。



12月14日（水）には、鎌田さんに完成したラベルを納品し、何度も「すごい、ありがとう。」という嬉しいお言葉をいただきました。また、「みんなで、正月、これを（ネギを）いっぱい売れるように、頑張りますので、もし、追加ありましたらよろしくお願いします。」と、さらに嬉しいお言葉もいただきました。

翌日には、鎌田さんとラベル作りを通じた経験を「特別の教科道徳」の題材として取扱い、具体的な経験を振り返り、“C 社会参画・公共の精神”を学びました。自分たちが作ったラベルが、鎌田さんの喜びだけでなく、その先のお客さんにもつながっていることを実感し、生徒からも「店に並ぶまでの物をみんなと協力してお客さんなどが嬉しくなることを考えて働いていきたいです。」等の表現が見られるなど、自分たちも社会の一翼を担っているという「社会参加の意識」を高めることができました。



この単元を通して、効果的に国語科、職業科、情報科、社会科、道徳科等を具体的な場面を通じて、学ぶことができました。地域の人と協力して取り組んでいくこと、地域に貢献していくことの面白さ、大切さを実感し、学ぶこともできました！！

今後も、生徒たちが「地域」と連携しながら、自立と社会参加の力を育てていけるようにしたいと思います。

中学部 保健体育 2段階 E球技

単元名:「ベースボール型 ソフトボール」

Hさんの本時の評価規準（保健体育科2段階）

- ② より遠く打つことについて、自他の課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりして実践しようとしている。
（思考・判断・表現）

＜枠を越えた力：問題発見・解決能力＞

- 学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測し試行錯誤等をしながら、問題発見・解決に必要な力を身に付ける。

資質・能力を育むための指導のアイデア

【指導と評価の一体化】

教材

- ・ICT機器を活用して、分かりやすい動画等を用いたり、自分の動きをふり返ったりするようにする。



指導

- ・生徒が動きを意識できるようなポイントを押さえた言葉掛け。

言葉

- ・生徒が分かりやすい体の動きを表現した言葉の使用
- ・言葉の統一（基本的な用語や体の動きを表す言葉、発問など）。

単元構成

- ・自分の課題をゲームの中で気付くように設定することで、本人の意欲や考えに沿って解決に向かうようにする。
- ・考えを深めるための時数配分。



＜単元研究会のあと・・・＞

次の単元では、球技「ネット型」のバレーボールに取り組んでいます。思・判・表の資質・能力を育むために、考えを深める時間を多く設定しました。また、知識・技能で習得させるもの、習得した知識・技能を活用して身に付けるものを選別して展開を考えました。オーバー・アンダーハンドパス等の基本的な知識・技能を習得した上で、試合後に「味方にボールをつなぐためには」という焦点化した発問をすることで、前時の知識・技能を振り返り、活用しながら話し合い活動が展開でき、思・判・表が育まれる中で、知識・技能が深まるのではないかと思います。単元を設定するなど、生かすことができました。



高等部 保健体育 1段階 E球技

単元名:「ティーボール」

Sさんの本時の個別の指導目標（保健体育科1段階）

- ① 攻守などの状況に応じた動きを理解するとともに技能を身に付けることができる。
(知識及び技能)
- ② 自分やチームの課題を発見し、その解決のための方法に気付いたり、仲間と考えたりした戦術などを他者に伝えることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- ③ ルールやマナーを守り、友達と協力して課題を解決しようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

資質・能力を育むための指導のアイデア

【指導と評価の一体化】

教材

- ・技能のポイントを明示したプリントを使用する。
- ・有名な選手などの動きを視覚的に示し、イメージを持ちやすくする。

指導

- ・ICT機器を活用して自分の動きを振り返る場面の設定。
- ・生徒が動きを意識できるようなポイントを押さえた言葉掛け。

言葉

- ・チームで戦術を話し合う活動を通して、自分の動きや友達の動きを言語化させる。



単元構成

- ・国語科で育む言語能力やホームルームでの話し合い活動など、他教科等との関連を図る。

<単元研究会のあと…>

今後の単元については、より仲間を意識して取り組めるように、仲間同士で話し合いを行う場面を意図的に設定していきたいです。ICT機器などを活用し、お互いの動きなどVTRでの振り返りを行うことや、話す視点が分かるようにキーワードやポイントを示した話し合い活動を取り入れ「言語能力の育成」という部分にも着目した単元を構想していきたいと思います。



高等部 保健体育 2段階 E球技

単元名:「ティーボール」

Mさんの本時の個別の指導目標（保健体育科2段階）

- ① 投げる腕を後方に引きながら、投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げることができる。 （知識及び技能）
- ② チームの勝利を目指すための課題について友達と意見交換したり相手に自分の思いを伝えたりすることができる。 （思考力・判断力・表現力等）
- ③ 活動に見通しをもち、自分の役割を意識したり、友達と協力したりして活動することができる。 （学びに向かう力、人間性等）

資質・能力を育むための指導のアイデア

【指導と評価の一体化】

指導

- ・投げる際の体の使い方（投げる方向と体の向き、腕のスローイング、体重移動等）を段階的に指導する。

言葉

- ・技術に応じたキャッチボールのペアの工夫。
- ・友達と意見交換しながら高め合う場を設定する。
- ・ICT機器を活用し、自分の動きを修正する。

教材



単元構成



- ・全力で投げる、至近距離から投げる等、バリエーションを取り入れながら、「投げる」技能の向上を図る。
- ・単元のまとまりで、どの時間に、どのようなことを意識づけするのかを明確にする。欲張らない。
- ・枠を越えた力の言語能力の育成も図っていく。

<単元研究会のあと…>

「できるだろう」と決めつけず、きちんと目標を達成していたのか見ていかなければならないと感じました。今後は、バッティング動作の習得に向け指導していく。立ち位置や体の向き、またバットの振り方などを、動画を見せたり、声を掛けたりしながら指導を行うことで、バッティング技術の向上が期待されるのではないかと思います。技能の向上を高めながら、自信を付けさせたいです。



ホームページ掲載資料等より
○教師のICT技術向上のための
デジタル推進部による教師寺子屋

～寺子屋チラシと感想編～



校内で、こんな感じで研修していましたという
紹介です！

実際に、研修部の掲示板に貼られていた宣伝
資料です！参考までにどうぞ！

【日々の研修コラム～夏の教師寺子屋で自分に合わせたスキルアップ！～】

夏季休業中には、様々な要望に合わせた教師寺子屋が行われ、それぞれの先生が自分の興味やキャリアに合わせて、自由に参加する形で行われました。

8月19日には、「ミドルリーダー研修・OJL研修会」が行われ、小野寺先生をお招きして、一般企業で学ぶ組織学や最新の考え方を学び、自身のキャリアと向き合う様子が見られました。



【参加者の感想】

- 「まずは、自分のメンタルモデルに気づくことが必要だと感じました。エッセンシャル思考に転換すること、少しずつ頑張ります。」
- 「“より少なく、より良く”を常に意識できたらと思います。」
- 「最高のパフォーマンス(授業)を提供するためには、エッセンシャル思考を実践していく必要があること学びました。」



○「いろいろな言葉や考え方を学ぶことができた。自分のメンタルモデルを理解し、これからの仕事に生かしていきたいと思う。これまでの自分の考え方が言語化され、耳で聞いて、目で読んで、とてもしっくりきました。とても素敵な時間を過ごすことができました。」

等

「働き方改革」は、教員でも取り組むべきこととして言われています。お題目にならないように、どのように業務を改革していくか、本質は何かについて、企業で学ぶ組織学から多くの知識を得ることができました。今後も、子どもたちによつての授業が充実できるように、職員同士で協力しながら取り組んでいきたいと思ひます。

＊他、夏に実施された教師寺子屋の様子の一部



【教師のための
パソコン講座】



【リビングロボット
活用講座】



【一般企業経験の
先生による企業研修】



【スイッチ教材
作成講座】

先生方の学びを大切にして、みんなで子どもたちの資質・能力の充実を目指します！

【日々の研修コラム～ICTの教員のスキルアップ！～】

9月下旬に、「授業に生かすICT～授業形式で学び使おう！！～」が行われました。本校のデジタル推進部の関本教諭、山本教諭から、学校のタブレット端末に入っているアプリの授業場面での活用方法を教えてもらいました。

それぞれの参加者が自分の授業をイメージしたり、使える場面を情報交換したりしながら、学び合う様子が見られました。



【参加者の声】

○こういうことがしたかった！！ということが学校のタブレットに入っているアプリでできるということが分かって、今後の授業に活用していこうと思いました。ありがとうございました！



○ipad の画面収録のやり方、ずっと知りたい！と思っていたので、とても参考になりました。Googleレンズや miyagi touch も重複障がいの子どもたちにも使えそうだなと思います。とても有意義な時間でした。デジタルすごい！！



○ICTをうまく活用することによって、様々な実態の子どもたちの思考が読み取りやすくなるという発見がありました！！

先生方の学びを大切にして、みんなで子どもたちの資質・能力の向上を目指します！

今回はこんなお悩みを近道・解決

相馬支援学校 研修部
～テーマ Learning～

「業務効率化のための の教員パソコン教室」

今回の講師の先生は・・・



ICT 支援員、デジタル推進部等

日時 : 令和4年7月22日 (金)

13:30～14:30

場所 : 視聴覚会議室

持ち物: 自分が使っているノートパソコン

昨年に行った内容を復習するとともに、これを機会に、早く仕事をできる技術、重くなったパソコンを軽くする技術、エクセルやワードの技術など、気になったことを聞いちゃいましょう！



教師のための「パソコン教室！」

ニ上プロ!山内プロ!

ありがとうございます!

参加者の声 (一部です)



苦手意識がありました。「知る」ことで、「おもしろい」と思って「やっていきたい」と思いました。わくわくしながら覚えていきたいと思えます。お忙しい中、ありがとうございました!

一度もPCの使い方を学んだことがなかったので、とても勉強になりました。実用的なものばかり教えていただいたので、今日から使っていきたいと思えます。ありがとうございました。



もうめちゃくちゃ感激しました!!!
まず、Cntr + Z, Cntr + Y から日々使って、早く仕事を進められるようにしたいと思えます。やりながら覚えます。

すごく楽しかったです。新しく分かるって楽しいですね。教わったことを活用して、自分の時短に向けて定着を図りたいと思えます。いやー、すごい。すごいですよ。ニ上プロ、山内プロ、プロすごいです!!!



ショートカットキーなど、覚えていきたいと思えます。無駄な作業を減らして、業務の効率化につなげていきます!!

今回はこんなお悩みを近道・解決

「一人一台端末に向けた ICTタブレット活用講座」

今回の講師の先生は・・・



安島プロ、大関プロ



日時 : 令和4年8月23日(火)

13:30~14:30

場所 : 視聴覚会議室

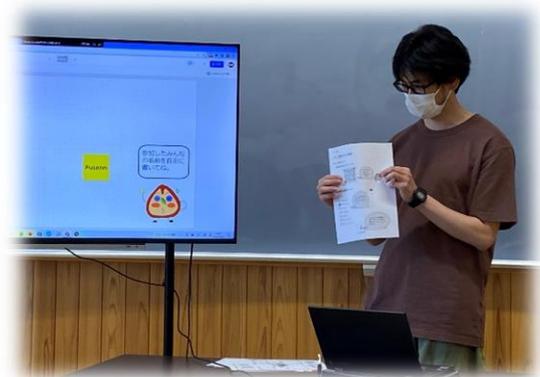
持ち物 : 配当されているタブレット端末

タブレット端末を使って、各教科等の資質・能力が育まれるための実践を紹介します！あと、せっかくだから、みんな、教えて！

考え、技術の幅を広げ、私たちのスキルアップして授業を楽しめればいいですね！！



大関プロ、安島プロ、ニ上プロ タブレット端末活用講座!! 参加者の声 (紙面上、一部です)



QRコードが作れるとは驚きでした。すぐに使いこなすことは難しそうですが、徐々に活用できるようにしていきたいと思いました。

QRコードを使ったクイズは、ぜひ、活用させていただきたいと思いました。お忙しい中、研修ありがとうございました!!



QRコード、感動しました。どのようにipadを活用すればよいか、生徒の興味・関心を考えると、悩んでいましたが、今日学ぶことができ、早く使ってみたいと思いました。自分がとても楽しんでできたので、生徒がワクワクしている姿を想像すると、楽しみになりました。ありがとうございました!!

ジャムボード使ったことがなかったですが、研修を受けてすぐに授業で使用してみよう!と思いました。共有・修正がホワイトボードよりも非常に楽なので、付箋機能をつかって生徒の考えを共有したり、体育・職業の時間のグループきめなど使用したいと思います!



今回はこんなお悩みを近道・解決

「授業に生かすICT

・・・授業形式で学び使おう！」

今回の講師の先生は・・・

最強！

デジタル推進部プロ



日時 : 令和4年9月27日 (火)

16:00~16:30

場所 : 視聴覚会議室

持ち物 : 配当されているタブレット端末

今回は、

小・中学部がターゲット

高等部のあの生徒にも使える！！



ICT活用講座!!

つぐみプロ!山本プロ!



ありがとうございます!



参加者の声 (一部です)



こういうことがしたかった!!ということが学校のタブレットに入っているアプリでできるということが分かって、今後の授業に活用していこうと思いました。ありがとうございました!!!

「単元で使えそう!」とすぐに思えるものがありました。使ってみたいです!!



Ipadの画面収録のやり方、ずっと知りたい!と思っていたので、とても参考になりました。Googleレンズやmiyagi touchも重複の子どもたちにも使えそうだなと思います。とても有意義な時間でした。デジタルすごい!!!!

ICTを活用することは、特別支援学校では難しいものかと思っていましたが、逆にICTをうまく活用することによって実態の低い子どもたちの思考が読み取りやすくなるという発見がありました!!



【今後に向けて～デジタルとアナログの効果的な融合～】

実践事例について 高等部「消費生活」



私たちの生活で金銭を払ってサービス、購入している物の考えを集める。

▷学ぶための手立て
▷情報活用能力

すぐに印刷し、優先的に支払うものを個人で考える。
* 計画的な金銭の管理

紙媒体で考える

ジャムボードにて、考えの幅を広げる。また、QRコードを読み取る技術、活用の方法も学ぶ。

デジタルとアナログの融合

【高等部の作業学習場面で～】

高等部、紙すき班の事例です。『学ぶための手立て』として、ジャムボードにて、考えの幅を広げる。また、QRコードを読み取る技術、活用の方法も学ぶことや、『情報活用能力』として、私たちの生活で金銭を払ってサービス、購入している物の考えを集めることなどをしました。

常にICTを使えばいいというわけではなく、すぐに印刷し、優先的に支払うものを個人で考える。個人で考えることで、一人一人の学習評価が明確になり、より資質・能力を育むための指導と評価の一体化を図ることができます。

このように、資質・能力を育むために、紙媒体で考える良さなども生かした、デジタルとアナログの融合させた授業をおこないました。

このように、今後、授業のねらいに応じて、デジタルとアナログをどう使い分けて、より効果が上がるようにするか、様々な高校での実践でも指摘されている部分であり、本校でも取り組んでいきたいと思えます。

私たちの日々の実践が皆様の一助になれば幸いです。

【令和4年度 デジタル推進部・研修部】(◎主任 ○副主任)

◆デジタル推進部

小学部 関本つぐみ **中学部** 二上真也
高等部 ○安島孔史郎 山本祐一 ◎大関克也

◆研修部

小学部 ○根本麻美、相原聖美 **中学部** 藤田秦人
高等部 黒澤圭太、加藤優良、◎富村和哉